

わが歴史地理学会の大きな目的事業の一つは、毎年の学術大会で取りあげた研究発表を、改めて「紀要」の形で出版し、一般に公開することにある。本紀要が出版されたのは一九五九年のことであり、本一九七七年現在で第一九冊目を送ることになった。

本編はその名のように、かつて歴史時代に栄えた都市、今もなお地方の中心都市として生きのびる現在の歴史的都市のほか、若干の自由題による研究論文を収録している。しかも本「紀要」の特徴は研究対象の年代を先史古代から明治以後の歴史的現代にまで及ぶことであり、地表に刻印された景観としての都市の内容を研究する点で、歴史家が取り扱う都市史ないしは都市発達史とは若干の趣きを異にする。その分析の方法は、あくまで現代地理学の主流に沿うものであり、本書ではいずれも学界中堅の新鮮な研究が収録されている。

「紀要」の第一冊に収められた「本質と方法」の頃に比べると、その研究内容また年々微細化し、歴史地理学内での新しい領域での究明が注目される。さらに近年の「紀要」からは、新しく「会務報告」なる欄も充実して来て学会の一年間の歩みが見とられることも特色である。

がんらい都市は地表における人類集合の最大の空間であり、そこには自然及び社会における人々

のダイナミックな生活の縮図が展開されている。既刊行の人口、村落、生産、自然災害、交通等々との関連も深く、読者はこれらの諸研究が収録された既往の「紀要」をも参照しながら、本書を理解されることを念じてやまない。

なお本「紀要」についてもまた、その上梓にあたり財団法人畠山文化財団から多額の助成金を賜わったことを付記して謝意を表したい。

一九七七年一月